

福祉サービス第三者評価結果（総括表）

①第三者評価機関名

| |
|--------------------|
| 一般社団法人いばらき社会福祉サポート |
|--------------------|

②施設・事業所情報

| | | |
|---------------------------|----------------------------------|--------------------------------------|
| 名称：おおくぼ認定こども園大久保幼稚園 | 種別：幼保連携型認定こども園 | |
| 代表者氏名：岡部和子 | 定員（利用人数）： 160 名 | |
| 所在地：茨城県日立市大久保町 4-10-7 | | |
| 電話番号：0294-33-2274 | ホームページ：https://www.kotoen.ed.jp/ | |
| 【施設・事業所の概要】 | | |
| 開設年月日 平成 27 年 4 月 1 日 | | |
| 経営法人・設置法人（法人名等）： 学校法人 公土園 | | |
| 職員数 | 常勤職員： 20 名 非常勤職員： 10 名 | |
| 専門職員 | 保育士 23 名 公認心理士 1 名 | |
| | 幼稚園教諭 23 名 | |
| 施設・設備 の 概要 | ほふく室 | 2 部屋・47.1 m ² |
| | 保育室 | 6 部屋・337.2 m ² |
| | 遊戯室 | 1 部屋・137.4 m ² |
| | 保健室 | 2 部屋・7 m ² |
| | 調理室 | 1 部屋・22.7 m ² |
| | 職員室 | 2 部屋・58.2 m ² |
| | 便所（2歳未満） | 大 3 個・1 部屋・10.2 m ² |
| | 便所（2歳以上） | 大 9 個・小 9 個・3 部屋・30.1 m ² |
| | 職員用便所 | 大 5 個・小 1 個・5 部屋・14.3 m ² |
| | 調理員用便所 | 大 1 個・1 部屋・0.9 m ² |
| | 調理員用休憩室 | 1 部屋・1.5 m ² |
| | その他 | 6 部屋・321.6 m ² |
| 合計 | 31 部屋・988 m ² | |
| 屋外設備（園庭・畑・駐車場等） | 1919.2 m ² | |

③理念・基本方針

(理念)シュタイナー教育の精神に基づき、人生最初の 7 年間に作り上げられる正しい肉体の発達 が 以後の心身の正しい成長の基盤となると考えます。そのためには、幼児期は愛情の「莢」(さや)に守られた中で過ごさねばなりません。

両親はもとより、周囲の大人たちの 愛情のあり方、教育的環境の中の真実性と真摯さ——つまり、幼児期を過ごす環境が、新鮮さ・透明性・真実性を備え、幼児たちがそれらを全身で感じ取れる環境を用意してあげることが私たちの役割です。

(基本方針)「自由で自律的に生きることのできる人格の育成」という教育・保育目標をモットーに、意志・感情・思考のバランスのとれた心身の育成を心がけています。

人格の基礎をつくる大切なこの時期に、下記の 3 つの力をゆっくり、たっぷりと育てあげることが、自分のことも他人のことも大切に考えられるような逞しい心に育っていく足がかりとなると考えます。

①自分から取り組んでいく心(意志)

子どもの自己肯定感を育み、困難なことにも自信を持って意欲的に取り組むことができる力を養います。

②友だちを大切にできる心(感情)

乳児は集団の中でも一人ひとりの成長を大切に育てます。

幼児は異年齢で育ちあう中で、互いが尊敬し合い、共感し合い、協力し合える力を育みます。

③自分で考えていく心(思考)

子どもの「なぜ?」「どうして?」を大切にしながら、自然の不思議さや命の尊さを感じる力を育みます。

④施設・事業所の特徴的な取組

本園では、子どもたちの最善の利益を考えながら、感性豊かに笑顔で過ごせるよう一人ひとりの育ちを大切に、保護者に寄り添い、安全・安心・安定した教育・保育が提供できるよう日々取り組んでおります。また、関係法令や諸規定を遵守した幼保連携型認定こども園として運営をしております。

【縦割り保育】

異年齢保育だからこそ育める力があります。年齢の異なる幼児間のかかわりは、年下の者への思いやりや責任感を培い、また、年上の者の行動への憧れを生み、自分もやってみようとする意欲へと繋がります。保育士にとっては指導が難しく負担の大きい異年齢保育にあえて取り組みたいという、熱意のある保育士の集団です。

また、1クラス2人担任制を取り入れ、手厚い保育を実践しております。

【食育】

「食」への意欲は、あらゆる活動への意欲へとつながります。

食育のプロ集団株式会社ミールケアのご協力のもと、伝統料理を取り入れたり、米・野菜作りはもちろんのこと、味噌づくりやお菓子作り、秋刀魚を丸ごときれいに食べる会など、日々の活動や行事を通じて、「食べたい」意欲を活動の意欲へとつなぐ、さまざまな工夫を取り入れています。

【職員の取り組み】

職員は、職員会議を定期的に行い、保育の方向性を統一します。保育内容のほか、子ども・保護者への対応、保育内容の反省・検討を繰り返し、常に向上心をもって保育の質の向上にむけた取組を行っています。また、外部研修にも積極的な参加を促し、研修した内容は職員会議で発表し、全員が共有できるように努めています。

⑤第三者評価の受審状況

| | |
|---------------|---------------------------------------|
| 評価実施期間 | 令和5年6月15日（契約日）～ 令和5年8月31日（評価結果確定日） |
| 受審回数（前回の受審時期） | 初回（平成 年度） |

⑥総評

□特に評価の高い点

- ・縦割り保育での子ども同士の育ちあいを支援し、保護者との距離感も近く意見の吸い上げができています。
- ・職員はチームティーチングができるよう加配され、休暇の際はフォローの職員が配置されています。過度な職務負担が無いよう配慮されています。
- ・里山に近い立地でもある園庭には、様々な果樹が植えられ、畑で育てた野菜の収穫や食育体験もできる環境です。近隣の住民との交流もあり、室内だけでなく、屋外での活動の幅を広げる工夫がされています。
- ・ホームページには、情報公表ページに保護者アンケートの結果と考察、意見などが複数掲載されており、園の透明性と業務改善に取り組む姿勢が評価できます。

□改善を求められる点

- ・保育計画作成時の子どもや保護者の意向の確認や説明・同意の過程が抜けているので、職員側からの支援を中心に作るのではなく「育つ・ともに育む」姿勢をさらに反映されること期待します。
- ・OJTなどを通して伝えられ、仕組みとしては機能していますが、明文化（見える化）ができていない部分があるため、経験に頼る部分が多いと感じます。一般化できるものについては標準的な手順としてマニュアル化することを期待します。
- ・認定こども園の設備の整備、人材育成等多岐にわたり分析し、明確になった経営課題の達成に向けて、中・長期計画を作成して、職員も含めた園全体として解決に向けた取り組みに期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

当事業所が幼保連携型認定こども園として開所してから8年が経過したなか、更なるサービスの質の向上を目指して、今回初めて第三者評価を受審いたしました。第三者評価を受審したことで、今後の課題が明らかになったと同時に、改善点だけでなく、自分たちの強みを確認する機会にもなったことを大変ありがたく思います。何が出来ているか、出来ていないか、だけでなく、何よりも「どんな思いを持って保育を行っているか」という点について高く評価していただいたことは、保育理念の根幹にかかわることであるだけに、更にサービスの質を高めていこうという意欲を刺激されました。

今回の第三者評価の結果を踏まえ、園の強みである恵まれた自然環境と人材を活かし、子どもという社会の未来へ貢献してゆく事業所を目指して精進する所存です。また、利用者だけでなく、職員が生き生きと働ける職場環境を作ることもサービスの質の向上のためには欠かせないものだと実感いたしました。利用者も働く者も、ここに集う人々皆が幸せになれる仕組みを作っていくことが当事業所の役割であると認識いたしました。

今回、一般社団法人 いばらき社会福祉サポート様にご協力頂き、今後の運営を見直す貴重な機会をいただきましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

⑧評価細目の第三者評価結果（別紙）